

だんだんよくなる熊本。 でももつときれいな街に。

熊本大学 熊本商科大学スペイン語非常勤講師
田代・メネンデス・クリスティーナさん

フエノスアイレス生まれ。
ご主人の転勤で、この二十年の間、ローマ、コペンハーゲン、東京、大阪、メキシコシティと渡り、五年前から熊本市に在住。
国際感覚豊かなクリスティーナさんにお話を伺いました。

熊本に初めて来られたのは二十年ほど前、ローマにお住いのごときということですが、このたび本格的に熊本市にお住まいになって改めてのご感想は。

とにかく熊本は変わりました。とくに最近三年は一番変わったと思います。環境面ではだんだんよくなっていますね。水道なんか歩いていても街中の花壇が季節で変わるんです。でもせっかくきれいな街になっていくんですが、自転車の放置が気になります。このごろ少しはよくなっているみたいだけど、それから看板の色とかネオンも気になって仕方ありません。もっとおとなしいものにならないのかな……。

熊本は今後国際化というか国際交流という点からも発展していかなければならないのですが、そのような視点から、世界各国をまわりになっているクリスティーナさんがお気付きのことはありますか。

熊本が今から一番考えなければならぬのは「道」です。道がよくなればもつと住みやすくなります。広い道とコネクションが必要です。それに熊本市内をみた場合、橋も足りませんね。
水と緑は恵まれています。水は東京ばかりか外国と比べても本当においしい。熊本の水はこの水を守らなくてはいいけません。これは義務ですね。いろんなところに住んでみて本当にそう思います。緑はもつともつと多くしてほしい。

今からほとんど熊本を訪れる外国人も増え、熊本の人、とくに学生や子どもたちが海外に行く機会も多くなります。子どもたちにも国際化というか、外国の現在をしっかりと教える必要があると思います。ブラタ面もマイナスイ面もね。

いろんなところにお住まいになっていますが、日本の習慣などについて何か感じられることはありますか。

あります。あります。くつを脱ぐ習慣。くつを下着て同じ感覚なんです。人前でくつを脱ぐのは下着を脱ぐのと同じ感じ。部屋のなかでのスリッパも履れはしましたが、くつを脱ぐのが一番いそぎました。
かなりの食通と聞いていますが……。
熊本は季節の野菜や果物に恵まれているのがいいですね。安くて、多くて、とてもおいしい。だから、郷土料理をはじめ和洋を問わずいろんな料理ができるのが楽しい。ただ農業なんか少し心配。安心して食べられるものがもつと多くなればいいですね。

